

－2017年7～9月期実績と2017年10～12月期及び2018年1～3月期予想－

京 都 商 工 会 議 所  
担当：中小企業経営支援センター  
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

## 国内景気は回復し、先行きに期待感

～自社業況は業種間でバラツキ見られ、先行きに慎重な姿勢～

### 概 要

今期の国内景気BSI値は5.3（前期実績5.7）と上昇した。安定的な需要はあるものの、春の需要期の反動で旅館・ホテル、料理・飲食等が下降したが、幅広い業種で上昇したため、前回予想値（3.3）よりも、プラス幅が拡大する結果となった。今後の10～12月期は10.9と、秋の需要期を迎える観光関連産業が牽引するなどほぼ全ての業種でプラス幅が拡大する見込みとなっている。続く2018年1～3期は1.6とプラス幅は縮小するものの、全体として、国内景気の先行きに対する期待感がうかがえる。

今期の自社業況BSI値は0.2（前期実績▲0.1）とほぼ横ばいとなっている。国内景気同様、安定的な需要はあるものの、春の需要期の反動で、旅館・ホテル等の観光関連産業が下降に転じたが、堅調なスマートフォン需要を受けた電子部品関連産業、高騰する原材料価格を製品価格に転嫁した化学・ゴムなど素材関連の製造業が業況を牽引したため、業種間でバラツキが見られる結果となった。今後の10～12月期は10.9と、秋の需要期を迎える観光関連産業を中心に幅広い業種での上昇を予想するものの、続く2018年1～3期は▲2.4と下降を予想しており、全体的に先行きに対しては慎重な見方となっている。

（注）7月の下旬から8月の中旬にかけて同調査を実施し、573社中432社から回答を得た（対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業）。また7～9月期のBSI値は、2017年4～6月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス（▲）」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

### I 国内景気動向

2017年7～9月期は、「上昇」とした企業19.3%（前期実績19.7%）、「下降」とした企業8.8%（前期実績8.4%）、BSI値は前回予想値3.3を上回り、5.3（前期実績5.7）と上昇した。今後の10～12月期のBSI値は10.9と大幅に上昇し、続く2018年1～3月期も引き続き上昇で推移するものの、1.6と上昇幅は縮小する見込みとなっている。

### II 企業経営動向

**自社業況（総合判断）** 2017年7～9月期は、「上昇」とした企業25.4%（前期実績24.7%）、「下降」とした企業25.0%（前期実績24.9%）、BSI値0.2（前期実績▲0.1）とほぼ横ばいとなった。今後の10～12月期のBSI値は10.9と上昇し、続く2018年1～3月期は▲2.4と下降に転じる見込みとなっている。

**1. 生産・売上高、工事施工高** 2017年7～9月期は、「増加」27.5%（前期実績26.7%）、「減少」25.2%（前期実績25.8%）、BSI値1.2（前期実績0.4）と増加した。今後の10～12月期のBSI値は13.1と大幅に増加するものの、続く2018年1～3月期は▲4.9とマイナスに転じる見込みとなっている。

**2. 製・商品・サービス・請負価格** 2017年7～9月期の製品価格、商品価格、サービス価格、建設業請負価格を総合的に見ると、「上昇」7.7%（前期実績9.2%）、「下降」7.5%（前期実績

5.9%)、BSI値0.1(前期実績1.7)とほぼ横ばいとなった。今後の10~12月期のBSI値は2.9と増加するものの、続く2018年1~3月期は▲0.2とほぼ横ばいで推移する見通しとなっている。

3. 経常利益 2017年7~9月期は、「増加」19.9%(前期実績20.6%)、「減少」28.3%(前期実績31.1%)、BSI値▲4.2(前期実績▲5.3)と減少した。今後の10~12月期のBSI値は6.5と増加に転じるが、続く2018年1~3月期は▲6.0と再び減少に転じると予想している。

4. 所定外労働時間 2017年7~9月期は、「増加」14.9%(前期実績19.1%)、「減少」18.9%(前期実績19.3%)、BSI値▲2.0(前期実績▲0.1)と減少した。今後の10~12月期のBSI値は8.2と増加するが、続く2018年1~3月期は▲2.0と再び減少に転じる見通しとなっている。

5. 製・商品在庫 2017年7~9月期は、「適正」とする企業が76.8%(前期実績78.0%)、「過剰」とする企業が18.3%(前期実績15.5%)、「不足」とする企業が4.9%(前期実績6.4%)、BSI値6.7(前期実績4.6)と概ね適正水準で推移したが、引き続き一部に過剰感が見られている。今後の10~12月期は「適正」が82.7%、続く2018年1~3月期は84.9%と、徐々に改善する見込みとなっている。

6. 資金繰り 2017年7~9月期は、「改善」とする企業7.2%(前期実績12.0%)、「悪化」とする企業が12.9%(前期実績8.1%)、BSI値▲2.9(前期実績2.0)と悪化した。今後の10~12月期のBSI値は2.7と改善し、続く2018年1~3月期は▲0.8とほぼ横ばいで推移する見込みとなっている。

### Ⅲ 当面の経営上の問題点

第1位は、「受注・売上不振」(42.6%)、第2位は「求人難」(36.1%)と前回調査といずれも同順位、第3位は前回5位の「技能労働者不足」(22.9%)、第4位は前回3位の「過当競争」(21.3%)、第5位は前回4位の「人件費負担増大」(16.9%)、第6位は前回と同順位の「原材(燃)料高」(16.7%)が当面の経営上の問題点として挙げられた。

B. S. I. 値の総括表		実 績		予 想	
		2017年4~6月期	2017年7~9月期	2017年10~12月期	2018年1~3月期
国内景気動向		5.7	5.3	10.9	1.6
京都企業の経営動向	自社業況(総合判断)	▲ 0.1	0.2	10.9	▲ 2.4
	1. 生産・売上高、工事施工高	0.4	1.2	13.1	▲ 4.9
	2. 製・商品・サービス・請負価格	1.7	0.1	2.9	▲ 0.2
	3. 経常利益	▲ 5.3	▲ 4.2	6.5	▲ 6.0
	4. 所定外労働時間	▲ 0.1	▲ 2.0	8.2	▲ 2.0
	5. 製・商品在庫	4.6	6.7	4.1	3.4
	6. 資金繰り	2.0	▲ 2.9	2.7	▲ 0.8

※ B. S. I. 値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) ×  $\frac{1}{2}$